

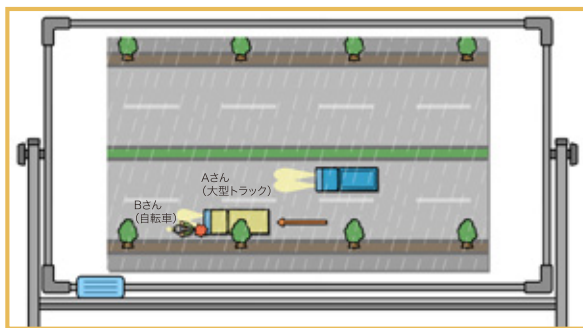
前方不注視による 夜間走行中の自転車への追突事故

事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役立てください。

事故に至るまでの状況

Aさん(男性、60代、大型トラック運転)は、平日の夜11時ごろ小雨が降るなか、歩車道が分離された中央分離帯のある、見通しの良い往復4車線の道路の第1通行帯を時速50キロで走行中、Aさんと同じ通行帯の左端を自転車で走行していたBさん(男性、50代)に追突してしまいました。このはずみでBさんは左前方に押し出され、街路樹に衝突したのち転倒し、頭部、胸部に重傷を負ってしまいました。

事故現場略図



事故の原因

事故が発生した場所は、道路照明がないため暗く、普段夜間は大型車両の通行が多い所でした。事故当時Aさんは、第2車線を同方向に走行する別の車両の動きに気をとられ、Bさんの発見に至りませんでした。また事故現場の道路には自転車通行可の歩道も設置されていたことから、まさか自転車が車道を

走っているとは思わなかったようです。Bさんの自転車には後部に反射鏡が付いており、前照灯も点灯していました。一方、Aさんは車両の前照灯を点灯させていたものの、下向きだったことも発見の遅れにつながった可能性があります。

安全運転に向けて指導のポイント

四輪車対自転車の事故類型で多いのは、「出合い頭」や「追い越し・追い抜き時」の事故ですが、死亡事故に限ると追突が約半数近くを占め、さらに夜間には追突比率が6割近くと圧倒的に他の類型と比べ高くなっています*。これは夜間、四輪運転者の自転車発見が遅れ、衝突速度が高いまま衝突していることが原因と考え

られます。四輪運転者は特に夜間はハイビームにするなど自転車の発見に気を配り、追い越し時にも自転車との距離をできるだけとり、その距離に応じた適切な速度まで減速することが大切です。自転車側も反射材や、後方に自発光LEDランプを装着するなど自分の存在を周りに気づかせるようにしましょう。

* (公財) 交通事故総合分析センター「イタルデザインフォーメーション No.125「四輪車対自転車の追突事故」2018年」

今月の安全メモ!

- ・夜間、自転車への追突は重大事故につながりやすい。左側端を走る自転車を早期発見しよう!
- ・自転車を発見したらその動きに注意を払い、適切な側方距離または速度で追い越ししよう!